

平成19年度第3回中原区区民会議

日時 平成20年1月18日（金）14：30～

場所 中原区役所5階 502・503会議室

午後 2 時32分 開 会

1 開会

司会 皆さん、こんにちは。まだ到着でない委員さん、参与の方はいらっしゃいますけれども、定刻を過ぎましたので、ただいまから第3回中原区区民会議を始めたいと思います。

議題に入るまでの間、進行役を務めさせていただきます畠山です。よろしくお願いいたします。

それでは、最初にまず本日の区民会議の出席、欠席につきまして、委員の方は、酒井委員、東田委員、宮本委員、の3名はそれぞれ所用であらかじめ今日ご欠席という連絡をいただいております。それから参与の方では、市会からの潮田参与、志村参与、原参与につきましてやはりご欠席というご連絡をいただいております。県会の滝田参与からもご欠席の連絡をいただいておりますので、ご了解をいただきたいと思います。

それから、委員さんの交代がありまして、これまで民生委員児童委員協議会の会長として区民会議委員としてご活躍いただきました三竹和子委員さんにおかれましては、過日、会長の職を退任されましたので、その後任として杉野茂彦会長に委員にご就任いただくということで委嘱をしておりますけれども、本日、杉野委員さんにつきましては別の会議に今出席されていまして、そちらが終了次第こちらにお見えになるということですので、ご了解をいただきたいと思います。

それから、立野参与につきまして少し遅れますということでご連絡いただいておりますので、ご了解をいただきたいと思います。

それでは、本日の会議開催に当たりまして、中原区長の浮揚よりごあいさつ申し上げますので、よろしくお願いいたします。

区長 皆さん、こんにちは。大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。また、年明けということでございまして、地域での行事等々もあろうかと存じますが、お忙しいところ本当にありがとうございます。

本日は19年度第3回区民会議で、前回に引き続きまして「地域で取り組む環境対策」ということでご議論いただくことにしてございます。

いろんなところで私も申し上げておりますが、今、川崎再生フロンティアプランの新実行計画と新・行財政改革プランを策定中でございます。この中で区行政改革が大きな柱の一つでございます。地域の課題をみずから発見し解決する市民協働拠点としての区役所の機能の強化が求められるということでございます。その大きな取り組みの一つが、この区民会議でございます。これまでもいろんな面でご議論いただいて、その取り組みが今、地域での広がりを見せているところでございまして、改めまして感謝を申し上げたいと存じますが、また引き続き、よろしくどうぞお願いしたいと存じます。今、本格実施の1期目

でございます、今年の6月が1期の任期でございますが、その取りまとめなども今後してまいらなければならないということで、また後ほどお願いをいたします。重ねてのお願いばかりで恐縮でございますが、よろしくどうぞお願いしたいと存じます。

今日の開会に当たりましてのお願いということでございます。どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

司会 ありがとうございます。

次に、会議の公開についてですけれども、委員の方、参与の方はご承知だと思いますが、この区民会議につきましては、会議公開条例に基づきまして公開で行われることになっております。また、それに伴いまして、会議録を作成しまして、その会議録も公開することとなりますので、あらかじめご了解をいただきたいと思います。

それでは次に、本日、お手元にお配りしています資料の確認をさせていただければと思いますので、よろしくお願いします。

事務局 それでは、お手元に配付させていただいております資料につきましてご確認をお願いいたします。

一番最初に、「第3回中原区区民会議」とありますレジュメがございます。

続きまして、別添1は本日の席次表になっておりまして、その裏面が名簿になっております。

別添3は、中原区区民会議取り組み報告書の用紙を3枚添付させていただいております。また、それに併せて委員の皆様には別添4という形で返信用の封筒をお手元にお配りさせていただいております。そちらが別添の資料になります。

その下から本日の資料になります。クリップどめをさせていただいている資料でございますが、一番上にA4の用紙で本日講演をお願いさせていただいております中山様のプロフィールになっております。

それをおめくりいただきまして、資料1としまして、今日の会議のパワーポイントの資料の一覧になってございます。

続きまして、資料2としまして「(仮称) 中原区区民会議地球にいいことプロジェクト」実施計画書・報告書」となっております。これも両面の資料1枚になってございます。

続きまして、資料3は「中原区役所での取り組み計画一覧」になってございます。こちらはホチキスどめになっておりまして、その次に区役所の「一課一エコ運動」、さらに最後のページがこちらのプロジェクトのキャラクターマークについての資料になってございます。

続きまして、資料4といたしまして新聞記事の切り抜きの資料を添付してございます。

最後に資料5といたしまして、前回の第2回区民会議の委員の皆様からのエコ提案を抜粋したものを添付させていただいております。

資料は以上でございますが、そのほかにお配りさせていただいているもの等ございました、「市民共同おひさま発電所」というカラーの小ぶりのパンフレットに、「第2回区民会議企画運営準備会（自治推進委員会フォーラム）」のご案内を挟み込んだものを一式添付させていただいております。

そのほかにも緑色の「市民提案型事業『事業提案』の募集」のご案内。

あとはカラーの「たまがわっこシンポジウム」のご案内をお配りさせていただいております。

以上でございます。もし不足しているもの等ございましたら、事務局の方までご連絡をお願いいたします。

司会 資料につきましてはよろしいでしょうか。——ありがとうございます。

それでは、これから議事に入りますけれども、議事進行につきましては横川委員長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

横川委員長 皆様こんにちは。年が改まりまして、新しい年の顔合わせの会議でございますので、昨年同様、何とぞよろしくお願いいたします。

議長を初め、副がかわりばえしませんで、ちょっとがっかりしたかもしれませんが、それはそれなりに松襲を重ねて味のあるところをお見せしたいと思っております。

2 会議録確認委員の選任

横川委員長 それでは、ただいまから次第に従いまして議事を進めたいと思っております。目障りでございますので、座らせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、会議録確認委員の選任でございます。順番で恐縮でございますが、原委員と藤枝委員にお願いしたいと存じますが、皆様、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり、拍手〕

横川委員長 では、よろしくお願いいたします。

3 議題 「地域で取り組む環境対策その2」～わたしたちにできる“環境”を考える～

横川委員長 それでは議題に入りますが、「地域で取り組む環境対策」～わたしたちにできる“環境”を考える～ということで昨年は進めてまいりました。今回の議題は、「地域で取り組む環境対策その2」～わたしたちにできる“環境”を考える～でございますが、前回10月の区民会議では、まず地域での環境への取り組みについてビデオで報告を受け、その後、環境局地域温暖化対策担当から区の現状についての報告をいただきました。その後、委員の皆さん一人一人から、これから身の回りの環境に対してどんなことに取り組んでいけるかについて議論していたところでございます。

私たちのこの一人一人からご意見を聞いたというのは、川崎全体を通して非常に画期的な行動ではなかったかと思っております。今回は区民会議での議論をぜひ一度みんなで実践に移

していこうということで、前回の議論をさらに深めることといたしました。

本日の会議では、まず委員の皆さんがそれぞれの団体や家庭で取り組む環境についてお考えになられたことを発表していただき、意見交換をしたいと思っています。またさらに、この区民会議として取り組むことを決めて実践に移し、この中原区区民会議発として区民に呼びかけていきたいと考えております。

今日の流れについてご説明させていただきます。

地域で身近な環境に対して実践活動をされている区在住の中山育美氏から活動報告と課題提供をしていただきたいと思います。それから、各委員からそれぞれの団体や家庭での取り組み内容の決定を発表していただきたいと思います。区役所からも区役所としての取り組みの見える活動として報告をいただきたいと思います。最後に、中原区区民会議として取り組むことをどのようにしたらよいか、皆さんで決めていただきたいと思います。

それでは、最初に身近な環境対策について実践報告と課題提供を受けたいと思います。本日講演をお願いしていますのは中山育美様です。中原区に在住の方で、お仕事では環境問題に関する調査研究をなさっており、また、市の地球温暖化対策推進協議会グリーンコンシューマーグループ、それからエコショッピングや環境学習の出前講座などふだんの生活で環境に対する取り組みを行っておられます。中山様のご紹介をお手元に配付しておりますので、ご覧くださいませ。

中山様、ご準備よろしいでしょうか。

それでは、中山様、よろしくお願いいたします。

【講演】「わたしたちにできる“環境”を考える」

中山氏 ご紹介いただきましてありがとうございます。中山と申します。元住吉のブレーメン通り商店街の近くに住んでおります。中原区に住みまして10年ほどたつのですが、その間に子どももできまして、そうすると地域のサービスというのはどんなものがあるのだろうか、それから私は何をしなければならないのだろうかということに関心を持つようになりました。仕事をずっと続けていると、昼間ここにいる時間が短いものですから、それまで関心を持ったことがなかったのですが、子どもができて地域というものに関心を持つようになりました。あとは私、田舎でずっと育ってきたものでから環境問題には関心があって、プロフィールのほうにも書かせていただいておりますけれども、川崎市に地球温暖化防止に取り組む組織がある、そこに私のできることであればぜひ参加してやっていきたいと思ひまして、平成12年から、自分でもびっくりしているんですけども、結構長く取り組んできているなと思った次第です。

私の一人の活動というのを参考程度に気軽に聞いていただければと思います。よろしくお願いいたします。

〔パワーポイント〕

「グリーンコンシューマー」という言葉なんですけれども、グリーンというのは緑なのですが、山とかその辺の木々とかいう緑、それから環境ということの意味しているグリーンです。コンシューマーというのは消費者。買い物をする消費者という意味で、日本語にしてみるとなかなか日本語にならなくて、結局こういう「グリーンコンシューマー」という言葉とか概念というのが日本にはなじまないのかなとずっと悩んできてはいるんですけれども、イギリスでできた言葉、概念であるのですが、環境に配慮した買い物をする人という意味合いになっております。

私、自分でグリーンコンシューマーグループというところに所属しているので、自分でグリーンコンシューマーであると自負しているところなんですけれども、私が何をしているかというと、まずマイバッグ、布の小さく折りたためる袋を必ずいろんな鞆に入れて出かけています。何か買い物があれば、その袋に入れて、レジ袋はほとんどもらわないということにしています。

それから、買い物に行くとき「モノの一生を考えて買い物」と書いてありますけれども、例えば今、真冬なわけなんですけれども、スーパーに行くとトマトが山ほどきれいな色で売っているんですね。トマトというのは夏の食べ物なんです。それが今、こうやってスーパーで山ほど売っているということは、それだけ重油をたいて温室の中で育てているわけなんです。トマトというのは夏に食べるよりも冬に食べるトマトのほうが10倍のエネルギーを使ってつくられているというトマトの一生を考えてみると、トマトは夏に食べるものではないかと思う次第です。それでやっぱりその季節——この下のほうに「旬」と書いてありますけれども、その季節に食べれば太陽のエネルギーをたくさん吸収して栄養もたくさん持っているトマトというのを食べるのが体にもいいし、環境にもいいということになると思います。

また、そのトマトの売り方を見ていると、1個だけばら売りをしていることもあれば、プラスチックのトレーに4個ぐらい載ってラップをかけて売っていることもあると思います。そののどっちを買うかというと、トレーに入っているトマトを買うと持ち運びはしやすいかもしれないのですが、家に帰るとすぐごみになるわけですね。それよりは、今日、明日、このトマト1個あればいいということであれば、私はばら売りのトマト1個だけ買ってきます。

私、個人的に料理が苦手なものですから、例えばニンジンとかが4本入っていたりすると、最後の2本ぐらい使い切れなくて捨ててしまうんですね。それだったら2本だけ買えばいいということで、できるだけばら売りしているお店を選んで買うようにしています。

それからブロッコリーとかカボチャとか、アメリカとか海外でつくられているものが多いんですけれども、できるだけ国内でつくられているもの、近くで、できれば川崎で生産された食べ物を買うというのがいいと思うんですけれども、その季節限定であれば「のらぼう菜」というのがあるのを知りまして、昨年初めて買ってみました。そんなことで、近

くでとれたものを近くで消費するという地産地消というのも、すごく環境に配慮した買い物の行動であるということを、私はずっと関心があって勉強しているので、いろんなタイプのものが売ってれば、できるだけ環境に配慮したものを買うようにしています。

ただ、鶏肉と牛肉でどちらが環境に優しいかというと、鶏のほうが環境への負荷は低いのですが、すき焼きを食べたいときもありますし、ステーキを食べたいときもありますし、環境のことばかり考えて買い物をしているわけではないのですけれども、できる範囲でこういったことに気を使って買い物をしてみるというのもいいのではないかなと思っています。

こういった環境に配慮した買い物をする人の10原則というのがございます。10個もあると、なかなか読むのも大変なくらいなんですけれども、先ほど私が言ったように、必要なものを必要な量だけ買うとか、使い捨てのものを買わないようにするとか、あとはつくったときのエネルギーが少ないものを選んでみるとか、近くで生産されたものを選ぶ、そういったことが書かれています。

この中でちょっとややこしいかなと思われるのが、8番の「作る人に公正な分配が保証されるものを選ぶ」というのが、日本では余りなじみのない考え方かなと思うんですけれども、例えばコーヒーとかチョコレートとか、海外の児童労働をしてとったカカオ豆とかコーヒー豆とかでつくったコーヒーとかチョコレートではなくて、産地の人にも適正な報酬をお支払いして健全に収穫をした豆、環境にも配慮してつくっているカカオとかコーヒー豆をつくって、使っているものを選びましょうと。フェアトレードと言いますけれども、ただ、フェアトレードの製品というのはなかなか見つからないんですね。

ですので、この10原則それぞれ全部やるというのは無理な話ですので、こういったものを頭に入れてやるといいのではないかということです。後ほどまたご覧いただければと思います。

私が所属しているグリーンコンシューマーグループというのは、かわさき地球温暖化防止対策推進協議会の市民部会というのがあります。これはほかに事業者部会、学校部会、行政部会というパートナーシップの組織であります。その中にある市民部会のグリーンコンシューマーグループという、地球温暖化を防止するために私たちのライフスタイルを見直そうということでできているグループなのですが、その中でマイバッグを持っていく運動をしようとか、エコショッピング・クッキング、「どっちがエコ」というワークショップをやってみるとか、後ほどご説明しますが、プレーメン通り商店街など商店街との協働ということでの「一店一エコ運動」をやっていたり、ホームページからの情報発信ということで、グリーンコンシューマー・ガイドというホームページも立ち上げるというような活動をしているところです。

私どもで川崎市をエコショッピングタウンにしようというキャッチフレーズを掲げながらいろいろ取り組んでいるわけです。消費者を環境に配慮したようにしようという一方

で、例えば再生紙——再生紙は今かなり問題になっていますけれども、古紙100%のコピー用紙を買いだいたいと思っても案外売っていないんですね。ですので、そういった環境にいい商品を売るお店もまたふえていただかないと、グリーンコンシューマーが育っていかないということもあるので、お店と消費者と協働で、どちらも頑張っふえていくような活動をしていきたいということで展開をしているところです。

昨年、この会議でブレーメン通り商店街の理事長の伊藤さんをご紹介されたと思うんですけども、ブレーメン通り商店街で取り組んでいる「一店一エコ運動」は、川崎市の経済局が企画した頑張れモデル商店街事業というのがある中で、私たちのグリーンコンシューマーグループにお声がけいただいて一緒に取り組んできたものなんですけれども、「一店一エコ運動」というのをご提案させていただきました。

これは名前を見てわかっていただければと思うんですけども、1つのお店が何か1つ環境にいいことをやろうということで取り組んでいるもので、例えば省エネをしますということでもいいですし、クリーニング屋さんでしたらプラスチックのハンガーを回収しますとか、それからクリーニング屋さんですと、とても大きい袋を使うことになるんですけども、それを断っていただくとサービスをしますとか、神奈川子ども未来ファンドというところに断っていただいた分の5円を寄附する取り組みをしていますとか、それぞれのお店で、不動産屋さんなら不動産屋さん、銀行なら銀行、レストランならレストラン、物販のお店なら物販のお店でできることをそれぞれ展開しているところです。

それを継続する仕組みというのが、エコ調査隊というものがあります。これは地域の井田小学校と住吉小学校にお声がけさせていただいているんですけども、子どもさんたちが年に1回なのですが、お店を訪問して、ちゃんと取り組んでいますかというチェックをします。○、×、△とかで評価をして、全体でこういう問題があったよということをみんなで話し合うという場所なんですけれども、子どもが○、×、△をつける分には結構問題がないといいますか、大人がどうなのよと文句をつけると、ちょっと角が立ちますので、そこは子どもにやっていただくと、幾ら厳しいコメントでも、商店の方もちゃんと真摯に受けとめて、わかりました、これから気をつけますみたいなコメントをいただけるようなことになっています。

そういったこともやって、また「一店一エコ運動」の中でエコバッグをつくったりしています。ブレーメン通り商店街のエコバッグというのも有名なんですけれども、こういったものをつくったら、継続的に動かしていく仕組みというのがすごく大事だと思うんですね。エコ調査隊がまさにそのための仕組みだと思っております。物をつくったら、そのままそこで終わりではなくて、つくったらどうやって使っていくかという継続する仕組みを考えていく必要があるだろうなと思います。

それから先ほどご紹介した活動の中でエコショッピング・クッキングというものがあるんですけども、環境に配慮した買い物を子どもたちと一緒に商店街でして、そこで買っ

たものを使って環境に配慮したクッキングをするというエコショッピング・クッキングと
いうのをやっています。それは小学校でやったりとか市民館でやったりとかいうことで、
調理室があればいろんな場所でやってきております。

ここで実は何が言いたかったかといいますと、環境のグループというのは環境フェアと
かでアピールしたくなるんですけれども、それだけだと活動の場とか仲間がふえないんで
すね。ですので、実はここの国際交流センターのインターナショナルフェスティバルとい
うのは、去年は環境をテーマにして取り組んだのですが、別に環境に配慮していないテー
マで出展している方々もたくさんいるんですけれども、そういう方との交流がとれるとい
うことで、いろんな場所に参加していく、しゃしゃり出ていくということが、自分たちの
環境の取り組みを広めていくために結構重要なことだと思っています。

グリーンコンシューマーグループというのが川崎市のパートナーシップの協議会の中に
あるので、学校の先生方との協働もとりやすくなっていますし、企業の方との協働もしや
すくなっていて、恵まれたグループだなとは思っているんですけれども、できるだけほか
の場所に出ていくということが、活動とか仲間を広げるのに大事なことだなと思っていま
す。

ここに出ている「エコろじい」と「エコのみい」という2人合わせて「エコ
ちゃんず」と言っているんですけれども、エコロジーという環境、エコノミーという経
済が両輪、2つそろって地域とか環境にいいものになるんだという活動をしているところ
です。環境にいいことをやっているとお金によくないのではないかという言われ方をずっ
としてきたんですけれども、今は環境にいいことは経済にもいいという循環になってきて
いると思います。それを象徴したい私どものキャラクターとしてつくっているのも、時々
お目にかかっているのではないかなと思うんですけれども、ぜひかわいがってあげていた
だければと思います。

エコショッピング・クッキングはこんな形でやっていますけれども、環境に配慮したク
ッキングというのは、例えば皮を薄くむくとか、へたの部分をちょっとだけにして捨てる
ところを少なくするということが、それからガスを使うときは火がなべの横からはみ出さな
い程度でやりましょうとか、水を使うときも余りジャージャー出しっ放しにしなくても十
分洗えるんだよということを体験的に学んでいって、おいしい料理をつくる。その料理の
メニューも季節季節の旬とかに配慮して献立もつくっていきますし、料理の順番によっ
てはなべ1つでできるんだよ、なべを何回も洗わなくて済むしということをみんなで学んで
いっているところです。

それから、これは一つ別の観点からになるんですけれども、私が仕事とかでかかわって
いるところでぜひ地域の方にも知っていただきたいと思っていることが一つありまして、
それが化学物質の環境や人への影響やリスクということなんです、P R T R制度という
法律があるんですね。これは工場から化学物質を1年間にどれだけ放出しましたというこ

とを自分から報告する制度なんですね。それをP R T R制度という言い方をしているんですけれども、例えば川崎市の場合は、大気中に1年間にキシレンやトルエン、塩化ビニル、エチルベンゼンやベンゼンといった物質がこれだけ出ているという統計が川崎市のホームページに載っているんですけれども、例えばこれはどこの工場からどれだけ出ているということが個別の企業、個別の工場で知ることができるんですね。こういう制度があります。

中原区の場合は、自動車工場の大きなものがありますから、そこからキシレン、トルエンがたくさん出ているということであるんです。この物質の名前だけ聞いてしまうと、ちょっと怖いという気がしてしまうんですけれども、環境基準には問題になっていない程度であるということではあります。でも、どうなんだろう、本当に人や環境に影響がないのか、1年間にこれくらい出ているけれども、一遍に出るようなことはないのだろうか、もっと排出量を減らせないのかとか、そういったことを企業に問い合わせることはできるんですね。企業のほうも実は自分で出している環境報告書にこういった報告はしているのですが、そういうところに関心を持って企業に問い合わせることで、そうすると工場も頑張りますので排出量も減っていくのではないかと。

リスクコミュニケーションという言葉があるのですが、こういったことにも関心を持っていただけるとうれしいなと。実は私、川崎市でリスクコミュニケーションを進めるという取り組みもしているのですが、なかなか皆さんの関心が高まらなくて困っているところなんですけれども、こんなこともしております。

課題としてまとめたのは、道具とか方法はいろいろあるのですが、それをどうやって広げていくか、仲間をふやしていくかというのが課題かなと思っています。地域とか地球の環境のために今関心を持って行動に移すということが大事なわけなんですけれども、例えば私、勝手に書いてみましたけれども、いろんな人がいて、関心が高くて行動しているという人もいれば、全然無関心の人もあるだろう。大体無関心の方のほうが多いとは思いますが、関心の高い人にはリーダーとして行動していただければいいだろう。

とりあえず仕組みがあるのでやっているという人には、その意義がこういうものであるということをほめてあげたら、どんどんもっとやる気になるのではないかなと思います。

関心はあるけれども行動になかなか移せないんだよね、地球温暖化という言葉は知っている、こういうことをすればいいということも知っているんだけど、なかなか行動に移せないという方のためには、楽しいとか得するという情報とか仕組みがあるといいのではないかなと思います。例えばテレビを見る時間を1日1時間減らすだけで、1年間に3,000円、電気代として減らすことができますよと。そうすると、うちの子どもなんかは一日じゅう帰ってきたらずっとテレビをつけっ放しなんですけれども、1カ月、1日1時間見ないという時間をつくれたら300円あげるよ、そうしたら続くかなと。実は2カ月ぐらい続いたんですけれども、ちょっと最近は忘れていました。思い出したので、また再開

したいと思いますけれども、そんなこともできるのではないかな。そういった継続できる仕組みというのがあるのではないかなと思います。

無関心な人にはショック療法というのがあるのかなと。例えばこの間、ノーベル平和賞を取ったアル・ゴアさんがつくった「不都合な真実」という映画を見てみると、かなりショックで、まずは関心が持てるのではないかなという気がするのですが、あるいは一方で、無関心でもそんなに環境に負荷を与えない社会システムづくりというのができるのかなと。例えば公共交通機関、地下鉄をつくるというのがもしかしたらいいのかな、どうなんだろうとか、レジ袋を全国一斉に有料化するという規制をする、そういうのもありなのかな、でも、その前に何かできることはあるのではないかなというようなこともあるんですけれども、そういったこともあわせて考えていくのかなと思います。

一つ、行動に移して継続するためにポイントになるのは、先ほどの「楽しい」「得する」ということもあるんですけれども、なぜそれが必要なのか、重要なのかということが納得できるような情報があるといいと思っています。例えばごみを分別した後、どうなっているのだろうか。ペットボトルを分別しているけれども、本当にラベルは外さないといけないのかというところが納得できるような情報がわかるといいのではないかな。ですので、分別した後リサイクルされている工場を見学に行くとか、そういうすごく体で体験できることというのはインプットできるので、継続していくことにつながるのではないかなと思います。

最後に、私が今さら言うこともなくて、皆さんがここでマイボトル、マイカップを持っていってほしいというのはすばらしいことだなと。これは思ってもなかなか言い出せないことなんですけど、それをもう実践されているというのですばらしいと思うんですけれども、そういったことで環境というのは一つの切り口なので、いろいろできることがあるので、できることから小さいことでも継続していけることが大事ですし、それをいろんな企業の人、行政の人、ほかの市民グループとか隣の人と連携していけるということがもっともっと大事なことになるかなとっていて、それが私の課題となっているところです。

どうもありがとうございました。（拍手）

横川委員長 中山様、ありがとう存じました。今のお話をお聞きになって今日の議論の参考にしたいと思います。どの一つをとっても私たちの生活の中に入り込んで、大変ご苦労したり研究したり、多面にわたって活動していらしている様子がよくわかりました。

それでは議論に入りますが、まずは皆さん、ご自分の団体またはご家庭でどのような取り組みをしていきたいか、順番に発表していただきたいと思います。あらかじめレポートを提出していただいておりますので、資料1がお手元にあると思うんですけれども、ご覧いただきながら議論をしていただければと思います。議論といいますと、何となくかたく

感じますけれども、心のままに思ったことを発表していただいて結構でございます。その後また区役所の活動の様子なども伺います。皆様、順番にというと責任を感じてプレッシャーを感じるように思いますけれども、生活のあらゆる面の中から一つぐらいはお答えできと思うんです。順番に、どちらからまいりましょうか。先生、一番最初にお口を切っていただけますか。どうぞ。

生富委員 薬袋を捨てないで、また次の診察のときに持ってきてもらうということによって、紙のむだを省くということを考えました。

小須田委員 前回に発表した自宅にコンポストを設置しているのですが、実は1つですと、その1つが腐るまでに時間がかかる。ベッドに穴をあけてあちこち移動しなければいけないということで、現在、2個に増設しまして、1つを使っている間に1つが腐る。大体6カ月に1回、年に2回、だから6カ月ずつ堆肥が利用できるということで、非常にエコ。このところ、とにかく生ごみは出したことがありませんから環境局にはかなり協力していると思います。それから2つにしたことで堆肥が成熟されるので、庭に植えてある草花、植木など非常に元気がよくなっているということでございます。

これはご近所にも勧めているんですけれども、川崎市はコンポストを買うと費用を半額まで負担してくれるということは広報には書いてあるのですが、実際にお店へ行くと、そんなことは知らないよというお店もありまして、またコンポストを扱っているところも非常に少ないので、この辺、行政のほうからももう少しPRしてもらいたいと思います。

それから2番目に、長時間点灯する電球、特に門灯とか常夜灯などですが、この辺に白熱球を使っていたんですけれども、これを蛍光灯にすることによって電気代がかなり浮いて、実際に具体的には何百円という形で浮くようになりました。

ちょっと気がついたところはその2点です。以上です。

佐野委員 佐野でございます。お正月にちょっと鼻風邪を引いてしまいまして、紙の使い放題で、CO₂削減にはならなかったのかなと思いながら、今反省しております。息子一家も来まして消費電力もかなりアップしまして、1月－12月中はちょっと協力できなかったのかななどと思いながら、今、反省している次第です。意識すると、電気とか水道なども口やかましく家族に言わないと、出しっ放しだったりつけっ放しだったりというのがあったりしまして、大変に口やかましい忙しい月になりました。

マイバッグとかマイボトル、マイ箸とかは出かけるときは持参しておりますし、出かけるときも徒歩や自転車で、車は使わないようにしました。マイバッグのおかげで9,000円ものお買い物ができました。これは楽しくて、得しました。これを提唱するといいいのかなと。東急さんなんかも2ポイントいただけますので、かなりの額がたまりまして、10月いっぱい期限が切れますので早く使ってくださいなんていって、使わせていただきました。

活動はそんなところですけども、私が所属しておりますのは中原中学校地域教育会議

でございます。その中で子ども会議というのを市のほうから委託されて活動しているんですけれども、その中で自分にできるエコについて子どもたちに話をさせていただきました。それを報告させていただきたいと思います。

対象は小学校4年生から6年生まで28人のお子さんを集めてやったんですけれども、既に上丸子小学校では省エネ隊ということでプロジェクトを組んで、実際に学校の中で活動に取り組んでいるという報告をいただきました。写真を持ってきたんですけれども、子どもたちにこのようにワークショップという形でカードを配りまして、好きなように書いていただいて発表をしていただきました。一番関心のあるのは、すぐできることは電気の節約で19ポイントありました。2番目に水の節約で、おふろは連続で入ろうねという話が出ていましたので、17ポイント。それからごみを減らすこととか、リサイクルでフリーマーケットを利用したり、資源ごみは資源回収をやったりとかペットボトルの再利用ですとか、あとは古紙についてもございました。両面を使ったほうがいいよというところとか、紙はむだに使わないようにとか、それから牛乳パックの再利用で、まな板がわりに使って、それから再生紙のリサイクルに出すとかそういうお話も出ておりました。エアコンの温度の設定ですとか自然を大切にしていこうとか、エコバッグ。レジ袋はもらわない。車、マイ箸とか、そういう順番で出ておまして、子どもたちもエコには大変関心があるということで驚いております。

我々もこれから活動の中で、子どもたち、それから今度は大人の会議がございますので、そのときに大人も環境について意識を高めていただくような形で活動を進めていきたいと思っております。以上でございます。

鈴木委員 鈴木と申します。私の場合は、団体では、とどろき水辺の楽校では多摩川クリーンアップ大作戦ということでこの前のときにお話ししまして、市民提案型事業に応募させていただきました。今年度、3月9日に実施させていただくことになりました。皆様のお手元にカラーのチラシがございますので、もしよろしければ、一番手っ取り早くクリーン作戦ということで環境に配慮できるかなと思っております。このときに午前中は環境、午後からは子どもと文化ということで、ちょっと欲張りでシンポジウムをしようと思っています。毎回多摩川には行っているんですけれども、ごみが9月7日の台風で上流から流れてきて、かなりひどい状態になっているんですね。そうすると、汚いところに皆さん喜んでごみを投げてしまうので、それらを一回きれいにしたいと思っております。ご協力お願いいたします。

それから、とどろき土手の桜を愛する会では、昨年、桜並木を延長いたしまして、今、全長で400メートルなんですけど、その木の維持管理ということで、毎月毎月、草刈りとごみ拾いをしております。ごみの中で一番多いのは、見事にスロープなどもそうですが、たばこの吸い殻が大変多いので、まずそういうところからきれいにしてもらいたいなと、ごみを拾っております。これはただ桜のためにするということではなくて、桜並木があと10年

もしたら多摩川の中原区の名所になるのではないか。多分川崎市内でも有数の名所になっていくのではないかということで、たくさんの人が多摩川に来て、中原に来て、一つの観光名所になってくれればいいなと、そういうまちづくりの思いも込めて、ごみ拾い、清掃活動をしております。

個人的には、先ほど中山さんがおっしゃったように、必要なものを必要なときだけ買うというのは相当便利なところに住んでいないと多分できないかなと。子どもがたくさんいたり遠いところに住んでいたり働いていると、1週間分ためて買い物をしたりとか、それは仕方がないと思うんですが、実は私も元住吉のブレーメン通りとオズ通りのそばに住んでおりまして、大変便利なので、本当にキュウリ1本でもダイコン3分の1でもお肉100グラムでも買えるような状況の中にいて、一見むだなように見えますけれども、実はすごくエコには貢献している。買い物が少ないので、袋をもちろんもらわないで、自分のハンドバッグの中に入れて持って帰ってくる。ついでに、対面のところでばかり買い物をするものですから、店の人たちといろんな話をして、いろんなことが聞けるということで、一石二鳥かなと思っております。

吉房さんのやっぺらっしやるキャップに関しては、とどろき水辺の楽校としても取り組んでおりまして、協力するようにしております。以上です。

高島委員 今、鈴木委員が物すごく大きなお話をしてくださった後に細かい話でちょっと気が引けるんですが、私は一応女なのですが、余り主婦的な仕事をしておりませんので、マイバッグとかそういうのは余り利用しないほうなのですが、大体1カ月に500人の女性といつもつき合っておりまして、おおむね95%は主婦でございます。全市にわたっている人なんですが、月1回、毎月会議があるんですけれども、そこで必ず環境問題が物すごく話題として上ってきております。それで、そのときお互いに相手は全部主婦ですから、今、中山さんがおっしゃったような話がとてもよく飛び交っておりますけれども、その内容が非常に豊富になってきたということは、環境問題に対して皆さんが毎日の生活の中で相当意識し出したなということは喜びと思っております。

それから私個人のものとしましては、印刷物を非常にたくさん使いますので、極力後ろの白い部分は利用するようにしております。それから郵便物も多いので、古切手を使う必要のところには、できるだけ小まめに送らせていただいております。以上でございます。

内藤委員 内藤です。資料2のところに私の取り組み内容が5つあるんですけれども、その他もありますので。私のところは子どもさん相手の仕事をしておりますので、学童保育教室というのが小学校1年生から3年生はあります。そこでおやつ等々を毎日食べるんですけれども、今そこに塗りばしと書いてあるのですが、塗りばしだけでなく、おわん、あとキャンプも毎年行くんですね。そのときに釜飯なんかがもしあったときに器がもったいないですから——うちは私がアフリカ育ちみたいな、アフリカがあって今の私がある感じがしていますので、「もったいない」というのは本当に徹底してやっていこうと思って

います。ですので、食べた器で数がそろっているものは毎回使っています。

2番目と3番目に、生ごみは細かくして学童の畑とか、落ち葉を集めて自家製の堆肥、これもおかげさまで順調に来て、堆肥は去年から本格的に取り組んで、今年今ごろすごくよくなって、家内もパンジー畑をつくったりするときに本当にいい泥ができた喜んでくれているのですが、私は昨年冬に初めてこの堆肥を使ってダイコンづくりをしました。農業をやったことがなかったんですけれども、子どもたちが畑をつくるものですから、その合間で私もダイコンに挑戦して、おかげさまで、自分で言うのもなんですが、かなりおいしいダイコンができました。堆肥づくりがそういう形でも役立って、ダイコンでスティックのおやつを出したり、家内に油揚げと一緒に煮てもらって、それをおやつに子どもたちにも食べてもらったり、子どもたちもダイコンを引き抜くというのがいい経験で、ダイコンというのはあのまま横になっているんじゃないかと思っている子もいるんですけれども、あれが土の中にすぽっと入っているの、あれをよいしょと抜くと、私のはそんなにでかくないので子どもでもすっと抜けるのですが、喜んでもらったりして、子どもが泥と直接触れるような機会を多くしています。

それと、不要になったピアノ、リコーダー、サッカーボール——ピアノ、リコーダーは私、西中原中学校のPTAを以前やっていましたので、西中原中学校のPTAにお願いして集めさせていただいて、サッカーボールはフロンターレさんの中古のものです、昨年も5月の連休にエチオピアへ行ってみて送ってきました。それからカンボジアへは船便で送らせていただきました。これは本当にすごく喜ばれますし、日本で「もったいない」というのを東南アジアの子どもやアフリカの子どもが本当に目を輝かせて受け取ってくれるんですね。

どうぞ皆さんの中に——後で私、提案が2つあるんですけれども、その1つとして、この仲間でエコのネットワークづくりをしたいなど。もし使える中古のスポーツ用品とか楽器とかがあったら、私に委託していただければ、私のほうが発展途上国に持って行って使わせていただきますので。私は今年は10月の初旬にまたエチオピアに行くつもりで今計画を立てていますので、もしよろしかったら皆さんの関係のある学校とか事業所でそういった楽器またはサッカーボール等々、中古とはいっても十分使うにたえるものだったら、私にご連絡いただければ、私が引き取ってそれを活用させていただきたいと思っています。

それからペットボトルのキャップも始めて、子どもたちがいるのと、子どもたちのお母さんたちが協力してくださって、ある大きな事業所でもそれをやってくださって、年末に1万4,000個集めることができました。早船さんと言うのでしたかね、子どもたちも一緒に、代表に持って行かせたりしました。

それからスポーツ用品では野球道具、私は青年海外協力隊出身なので、発展途上国で野球を教えている後輩もいますので、野球道具も送ってほしいという依頼があったので、中古ですけれども、去年箱詰めにして送りましたので、皆さん、そのようなものがもし眠っ

ていたら私が活用させていただきます。スポーツ用品とか楽器等々のあれでしたら内藤に声をかければ何とかかなとか、このチームの中で例えば多摩川のことでしたら鈴木さんをお願いしますし、エコに関して竹井さんをお願いしますとか、芳賀さんをお願いしますのはここだとか、それぞれそれなりの分担——先ほどの中山さんの話にあったように、何かみんながそれぞれ、みんなでわあっというのではなくて、誰が何をやっているかという、この仲間でネットワークづくりをある程度していけば、得意分野で、私はそっちの分野では皆様のお力になれると思います。

傘の布でマイバッグをつくるというのがどこかであって、私も暇を見つけて古い傘の折れたのを一生懸命引っばがして、10枚ぐらい今とってあるんですけども、時間がなくて、どうやってこれをマイバッグにするのかなと思いつつとってありますので、例えばそういうのをとってくださったら、どこどこへ行けば、ぱっと誰かさんがボランティアでマイバッグをつくってくれますよとか、わかれば、私は一生懸命傘の布を集めても構いません。

それから私のところは、こんなおっさんの服なんですけど、私の服も余り汚くないものを高校生とかにあげると、結構もらってくれる高校生もいます。あと学童のあれですと、お母さんたちが小さくなった幼児のものがあるんですけどなんて言うと、ちょっと前の方はすごく嫌がって、人が着たものを着るなんてとんでもないという方が結構多かったように思うんですが、最近はまたこういう時代ですから、着てもいい、使ってもいいというリユース。リサイクルも大変ですけども、リユース。自分の周りに、私たち、うちの中を見れば、要らないもの、使わないものがあふれていますよ。それをリユースする形を私は私の事業所でしたいなと。家内や子どもたちの女の子の服などももらってくださる学童には渡したりしております。

マイ箸なんですけれども、これは私、去年のクリスマスに私がカウンセラーをしているオーストラリアの子からもらいました。ですので、私はもらった以上——その子は、私が一回食事に行って、おそば屋さんでうどんを食べたんですけども、マイ箸とマイバッグとマイペットボトルを持って、去年の春先だったか、これと同じものを——皆さん知っているように、これは伸ばせばこうやって出てくるやつなんですけれども、この年になると、なかなかクリスマスプレゼントというのはいらないんですけども、若い女性からいただいたので、今年はこれをできる限り使おうと思っていつも持っています。ただ、幾つかの会議ではこれを出すのがすごく恥ずかしいんですよね。ロータリーの会とか大きなパーティーとかで、そこまでは私、まだ出す勇気がないんですけども、1人でラーメン屋に行くときは必ず使っていますので、正月からこれを使おうと思っています。

提案というか提言が2つあるんですけども、1つはエコネットワークを何とかつくりたい。例えばこういうグループはこれが得意だと、この中でね。皆さんから出たのを取りまとめていただいて、どなたに何をすれば、その人がうまく処分してくれるという、この

区民会議の仲間の中での強いところをチェックするネットワークづくり。

それと私がどうしても我慢できないのは、最近、テレビを見ていて必ずやるのが大食いです。それはイベントの一つで、昔は例えばパイを顔にバチャッとぶつけて、それも盛り上げ方の一つでパーティーですけれども、それもおれの稼いだ金でこれをやるのだから何を文句を言うんだと言えればそれまでなんだけれども、テレビであんなに物を——モハammadさんのお国はどうかかわからないけれども、私が知っているアフリカの国は食べ物がないわけですよ。日本の僕らが幾ら豊かになって、これだけになったといっても、テレビで毎晩のようにこんなでかいものを一生懸命食ってというので、提言としては、こんなことをできるかどうかかわからないけれども、この区民会議でテレビのほうに、あんな大食いは、今の世界の地球環境のことを考えたときに、子どもの前で何かまるであれがいいことかのようにご飯をむだにするというのは、おかしいのではないかと。もうちょっとテレビ、マスコミで少し——例えば議員さんだってテレビに出た人が勝ちですよ。東国原さんだって、テレビに出ていなかったら絶対当選しませんよね。テレビの力というのは大きいんですよ。だから、テレビも本当に——テレビでいいテレビはあります。見ていて涙が流れるようなテレビもあるんですけれども、それが夕方5時、6時、7時ぐらいのちょうど飯を食べるときに、これでもかこれでもかと、あんな大食いの番組をやってしまうじゃないですか。あれはやめてほしいと皆さんは思いませんか。私はこの区民会議で川崎市の中原区はテレビ局に提言したい。ああいうのが今の日本の——また世界を考えて、世界の中の日本の率先垂範するような立場にいる我々が子どもたちに見せられるものか。そういうようなことも僕は、ちょっと事が大きいかもしれないけれども、どうせここで皆さんとアイデアを出し合って何かいろいろやろうというのなら、それぐらいの提言ができれば、私のここにいる時間も生きるかなという感じがしますので、その2つ。

ここの仲間のネットワークづくりで、誰が何が得意か。それから提言として——提言は大食いだけじゃないかもしれないのですけれども。ごみをポイ捨てしたりするのだっていっぱいやっているしね。とりあえずは、私は食べ物に関してそんな提言ができるような委員会に区民会議がなれば、本当にうれしいかなというのが2つ目の意見です。ありがとうございました。

芳賀委員 芳賀でございます。今日、ここにレポートにも随分項目を書いてあるんですけれども、本当に身の回りのところでエコをやっております。私の基本的な考えは、エコロジーよりもエコノミーのほうが先になっているんですね。非常に貧乏性なものですから、常にけちということで、電気も小まめに消すし水も節約するということはやっております。

そんなことで、二、三、代表して言わせていただくと、昨年、うちを建て直したんですけれども、そのときにうちのほうも、エネルギー的にはエコになっているかどうかわかりませんが、外壁などの場合は断熱材を上手に利用して、なるべくヒートロスのない

よううちにしようということで、ガラスは二重ガラスにしました。そのためにおもしろいことがわかったんですけども、うちの中へ音が入ってこなくなってしまうんですね。静かでいいです。熱のほうも万全だし、音も入ってこないということで、とても静かになっています。

それから電灯なんですけれども、我が家は数えてみましたら、今、私の住んでいる部分だけで14灯があるんですね。そうしましたら、そのうちの蛍光灯が8灯なんです。残りの6灯が白熱なんです。この辺も何か対策がないかなと思いましたが、最近の建築事情でデザイン上の問題だろうと思うんですけども、ミニクリプトンという座金の小さい照明器具になっているんです。そうすると、それにはまるような蛍光灯はないんです。器具まにかえなければならなくなってしまうので、ちょっとこれはエコはできないなと。そういうものは多分に早目に消すということにしております。大体白熱を使っているところは短時間に照明をするところだけということで、常時つけているところは蛍光灯になっているんですけども、そういうふうなこともしています。

それからもう一つ、私のうちは西側が開放されていまして、これはこれからの課題として取り組んでいきたいと思っているんですけども、先ほど面積をはかりましたら西側の壁だけの面積で80平米あるんですね。ですから、ここにグリーンでウォールをつくりたいなと思って、去年、区役所で実験したようなものをうちのほうでもやらせてもらいたいなと思っています。どこまでつるが伸びるか、一番てっぺんまでだと10メートルありますので、ちょっとそこまでつるが伸びるかどうかわかりませんが、やってみることによって、うちのほうとして夏場は冷房効果が相当期待できるだろうと思うし、皆さんには目に優しいグリーンができると思っております。

それから屋上も大体同等の面積があるんですけども、ここには芝生を植えるなんていう大変なことはできませんので、野草でも植えてしまおうかなと思っています。ただ、これは危ないですよ。台風の日などはそれが飛んでしまったりすると非常に大変なことになりますので、その辺は熟慮中です。うちのパラペットが高さ制限の関係で30センチぐらいしかなくて非常に低いんです。本当なら70センチから80センチぐらい、屋上の制限だと1メートル10センチでしたか、そういう規定があるはずなんですけれども、ただの手すりがついているだけです。下手なもの、植木鉢なんかを置いたら、もしかしたら吹っ飛んでしまうかもしれない。60メートルぐらいの風が吹くことを予想してやらないといけないなと思っているので、今いろいろと考えておりますけれども、そういうことで何とか我が家のほうで身の回りのエコから私はやっていきたいと思っています。

それからもう一言、蛇足になるんですけども、私が所属しておりますNPOでも、これは環境のほうとして小杉の駅前地区の清掃活動を毎週1回ずつやっております。そこで気がついたのですが、普通のごみはよく落ちています。ただし、その中で最近非常に気になるのがたばこの吸い殻なんです。これはエコとかあれじゃなくてモラルの問題にな

ってくるんです。中原区の場合でもそうですけれども、禁止区域があって決まっているわけですね。それなのに禁止区域の中の北口、南口、その辺にたばこの吸い殻がいっぱいある。そこで考えられるのは、あそこでたばこを吸っている人は中原区民なのか。恐らくよそから来て駅でおりて、誰かと待ち合わせるのにたばこを吸っているのではないかとすると、ここだけでたばこ、たばこと言ってもだめなので、もうちょっと何か宣伝の方法はないのだろうかというのが今ひっかかってくる場所ですね。そんなことで余り皆さんみたく大きなエコは私のところでできませんけれども、自分のうちのエコからまず始めるということがかかっております。

原委員 原と申します。よろしくどうぞお願い申し上げます。

私は社会福祉協議会のほうでご厄介になっているんですが、3カ月ぐらい前ですか、施設のほうから、原さん、もしワイシャツがあったら寄附してもらえませんかという要請があったんです。幸いにしてワイシャツはたくさんあるものですから、うちで着られなくなったようなものは、洗濯したものじゃなくてはいけないというものですから、もちろん洗濯してあるのですが、それをやったら喜んでいただいて、必要なところにはそういうものを送ると非常に喜ぶんですね。そういうことをさせていただきました。もしあったら寄附してくださいということだったものですから10枚ばかり持っていったのですが、非常に喜ばれました。必要な人はどんなものでも欲しがらるんですね。ですから、捨てないで——私は年寄りですから、もちろん捨てるのは大嫌いなほうですから、捨てるということは一切していませんので、昔のものでもいいからということで洗濯してとっておいたら、それをやったら大喜びされました。

あとは皆さんと同じようにむだを省いて、ガス、水道、電気等々はしょっちゅう小まめにやっているつもりでいます。身近な自分でできることだけをやっておりますが、皆さんに見習って実施しているような次第でございます。よろしくどうぞお願いいたします。以上でございます。

松本委員 私、子育て支援のほうで出ております。サロンで子どもたちの洋服の着回しを進めたいということを提案しまして、実はうちの子どもも最初は女の子で次が男の子だったので、持っている服がピンク色だったんですね。その当時はサロンとかはなかったので、なかなかお友達もいなくて、正直言うと、男の子に最初はピンクの服を着せていたのですが、そのうちお友達ができて、青い服をきちんといただけるようになったという経験があります。

この間、サロンにお母さま方が30名ほどお見えになったときに、皆さん、エコについてのようにお考えですかということでちょっとお聞きしてみましたら、皆さん、ほとんどの方が牛乳パックとかトレーをちゃんと回収するところに持っていきますとか、マイバッグを持っていますと、すごく関心がありました。

おむつを、布おむつはもちろん体にいい、環境にいいとは知っているんだけど、便

利性を考えると紙おむつを使ってしまうという方がいまして、外出するときは紙おむつなんです、家にいるときは布おむつにしていますという方もいました。

洗濯をするときに粉石けんを使うとか、お掃除に合成洗剤ではなくて重層を使うとか、皆さん、お子さんの体のことを考えて、とても環境のほうには関心がありました。

あと若い方なんです、余り物を買わないようにしたいとか、長く使いたいと考えている方もいらしたので、それは私も見習っていきたいと思いました。

あと大人の服を子ども用にリフォームする。お着物なども和服から洋服にとか、皆さんリフォームして使っているようなんですが、着れるものは最後まで使っていこうという意識はとても高かったと思います。

あとおもしろかったのが、子どもを早く寝かせて、親も早く寝たいというのがありまして、早く家族で寝る習慣をつけて、夜はなるべく電気を早く消すということを家の中でもやっていきたいと。確かに夜遅くまで起きている赤ちゃんもいるんですけども、やはりそれは親の意識なのかなと思いました。

それから私が家でやっていることは、たまたま今回、家をエコライフ住宅に建てかえまして、オール電化で環境に優しいのかどうかはこれからなんですけれども、結構神経を使いまして、マニュアルを見ながら全部やっていかないとなかなかというところがあるんですけれども、長い目で自分で楽しみというのが出てきましたので、うまく家を使えるようにしていきたいと。

それから今自分がたまたま区民会議に出ていて、環境のことについていろんなことを知識を得ているのですが、それをできれば知人にも広めていって、仲間をどんどんふやしていきたいなというのを思っております。以上です。

水品委員 水品です。PTAとしては何も特に取り組んではいないので、今回もレポートは出さなかったんですけども、ただ、運営委員会のときには、この間のペットボトルのキャップの問題とかマイ箸の問題とか、そういうのは広報してお話はさせていただいております。

特に個人的には、最近、エコ関係のテレビ番組というのはすごくやっているんですね。この間も見えていた中で、個人的にはうちも厚い靴下を履くなどして、特に暖房はなるべくつけないようにしています。

それとマイバッグ、マイ箸というのは必ず今も持っていくようにしていますし、出かけるときにはコンセントは必ず抜いていくということで、自分の身の回りでできることを自分なりにやっています。

あともう一つ、最近、蛍光灯の丸い電球というのが出てきて、白熱球を使うよりも、そちらを使ったほうが電気代もかからなくていいというのを聞いていたので、それを採用していきたいなと思っていますし、水道の蛇口のところに、名前は何と言ったか忘れたんですけども、そこは空気がザーッと入ってくるように、水の量が少なくて空気がいっぱい

出てくるような、泡のような水が出てくるということで、それで水道料金が少し変わると聞いていましたので、それを採用していきたいと自分では思っています。以上です。

村上委員 途中から入れていただきました村上です。私はここに書いてあるのは1つだけなんですけれども、皆さんのおっしゃったことも心がけてやっていますが、今年は充電式電池というのはご存じですよ。今割にはやっているというか、前には普通の電池を充電するという機械が出たことがあるんですけども、それはいろいろ危ないということもあって、今は姿を消したのではないかと思います。これは三洋電機というところが出している「Think G A I A」というシリーズの一つで、今おっしゃった洗濯機でしたか、あれもほとんど水を使わないでできるとか、この「eneloop」という乾電池は1,000回充電が可能ということなんです。普通は使えなくなるとみんな捨てますよね。それが1,000回使えるということで、ちょっとお値段は高いんです。これは単3が4本入っているんですけども、1,480円。普通の単3が4本だったら200円前後じゃないかと思うんですが。ただ1,000回充電できれば、こっちのほうが割安かなと。割安、割高というよりも、環境にはすごくいいのではないかと思います。これをせっせっせと買いまして普通のに取りかえているんです。どなたかさっきエコバッグで9,000円もふえたということがありましたけれども、これはふえないでちょっと費用がかかってしまいますけれども、環境にはいいのではないかと考えております。三洋の鈴木さんという方がつくられたようで、おとし、ウーマン・オブ・ザ・イヤーとかいうので賞をもらっていますけれども、こういうのがどんどんできてくれればいいなと思います。

それと商店街のほうで、この前、びんを持ってきて説明いたしましたリユースの件です。これ（パンフレット）はいっぱいありますので、今日皆さんに差し上げてよろしいでしょうか。このPRの一環としまして、2月8日（金）、9日（土）、新城の駅前のアルカードの横で試飲会を行います。お酒の好きな方は、ただで飲めますので。日本酒と焼酎もそのとき出ると思うんですけども。大手ですと、たくさん自然に売れて、回収率やなんかがわかるんでしょうけれども、名もないメーカーですので、数がはけないと、それを追いかけていってもデータは出ませんので、そういうことでPRをやります。2月8、9日の2時から6時ぐらい、新城駅前で行いますので、ぜひいらしてください。

横川委員長 皆さん、参加するときはご無理なくね。体調を整えてね。

村上委員 飲み放題だと思うんですけどもね、暴れる人は遠慮してください。

それと、こういういいことは皆さんおっしゃいますけれども、私は一つ不思議に思うのは、乗り物などでも、例えば九州のどこかへ行くというときは大体皆さん飛行機を使われるのではないかと思います。私は妻の実家が鹿児島にありますがけれども、鹿児島に帰るときもブルートレイン、汽車を使っております。今、「富士」と「はやぶさ」と一緒になったのしかないんですけども、1車両誰も乗っていないというのが幾つかあるんですね。ですから、便利だと、みんな飛行機に乗って行かれるんじゃないか。せっかく細かいこと

で苦勞しても、そういうところで炭酸ガス、排気ガスを出したら、ちょっともったいないなと思います。

夏などは山下公園が涼しいので、私はよく涼みに行くんですけども、あそこは上を見ていると飛行機がしょっちゅう通っているんですね。その間に遊覧飛行のが飛んだりとか、だから飛行機がこんなに飛べば空気を汚すなと思ったら、飛行機が一番汚しているんじゃないんだそうですね。これだけ走っているのだから車がそうかなと思ったら、車でもないんだそうです。何が一番かという、船なんだそうです。使う油の関係もあるかもしれませんが、船が一番地球を汚しているということで、知らなかったんですけども、言われてみるとそうなのかなと思って、今、船にもなるべく乗らないようにしております。

ここにこの活動の座長が載っているんですけども、安井至さん。1週間ぐらい前に12チャンネルのワールドビジネスサテライト、小谷さんがやっている番組に出られまして、炭酸ガスを減らそうということをおっしゃっていました。ここでは国際大学の副学長になっていましたけれども、そこでは東大名誉教授の肩書で出ていらっしやいました。

まだちょっとありますけれども、もう時間ですので。

モハammad委員 モハammadです。レポートできるほど大した格好いいことはやっておりませんが、常にエコロジーとエコノミーを意識して生活しています。おじさんじゃないのですが、いつもおじさんっぽい生活と言われているぐらいの物を大切にするとか、できるだけ長く使うということを心がけております。

環境とかエコロジーとかも、もちろんそれは非常にいいことですし、地球のためというのもあるんですけども、やっぱり物事にはバランスが必要ですね。暖房を使わないからいいという部分もあるけれども、それで風邪を引いてしまったら余り意味がないし、飛行機に乗らないというのはいい部分があるのですが、時間がかかってしまうというのもある。ですからバランスも考えて——もちろん一番エコロジーでいいのは世の中で電気を使わなければそれでいいのですが、そういうわけにもいかない部分もありますから、みんなそれぞれできるところとできないところがあるので、バランスを考える。

あと意識はもちろん非常に大事ですが、意識と一緒に知識も必要なんですね。ただ単に、例えば前回も私は多分言ったと思うんですが、いつも思うのが、日本で牛乳パックを洗ってちゃんとしたところに出すというのが本当にエコロジーにつながるか。それを1個1個うちで洗うために使う水のことを考えると、多分逆効果じゃないですか。ただ皆さんの意識が高まるという部分はあるかもしれませんが、逆に無駄遣いをしている部分もあるかなと思うんですね。それをまとめてどこか工場で洗うと、多分それほどの費用はかからないと思いますが、1つずつ洗うのに使う水と、10個まとめて洗う水は全然違うと思いますから、そういうのが必要。

あとなかなか大変ですが、今日の中山さんのお話にあったちょっと裏の知識まで入れれ

ば、例えばトマトをつくるのにも、冬の場合は夏の10倍のエネルギーがかかっているとか、あるいはこのコーヒーがどこでどういうふうな形でつくられているか、そういう知識も難しいのですが、それを得てからのエコロジーというのが非常に大事なと思います。

あといつもよく言っている、私は前回も言いましたけれども、日本では再生、再生と言っているのですが、再生、つまりリサイクルの前にリユース、再利用が非常に大事で、自分としては大したことではないんですけども、こういうところでいろいろ紙をもらったものを、その裏をうちで使う。一回使って、それからリサイクルに出す。

あといつも日本で困るのが服。先進国で結構豊かな社会ですから、なかなか誰かにあげるといことができないんです。今日の内藤さんのお話に、そういう服も最近もらった服を利用してくれる人がいるというのは、ちょっと驚きプラスうれしいということなんです。が、本当にいつも困るんですが、自分が何らかの理由で着れなくなった、ぼろとかでないけれども、結構いいものだけでも、自分がたまたまフィットしなくなったとか、そういうものをどこにあげればいいか。たまにはアフガン難民とかなんとかのところとか、そういうところがあったりするときは出しているのですが、いつもというわけではないのです。ね。ですから、常に捨てたいときに一般のごみに出さないで、そういうところがあれば捨てたいなと思うんです。確かに世の中、それをもらってうれしい人たちがたくさんいるはずなんです。なかなかそこにつながるネットワークが難しいなと思います。

内藤さんのお話に、私の国はどうかという話があったのですが、日本ほど豊かではないのですが、エチオピアとかアフリカに比べては、パキスタンはまだ結構いい経済状況にはあります。ただ、実際パキスタンにいくと、豊かな層とそうじゃない層があるのですから、自分が使わなくなった服をどなたかにあげたりとか、それは簡単にできるのですが、私は日本から年に一度国へ帰るとき、できるだけ古い服とかは持っていったりするのですが、そのためにためておくのもなかなか難しいですから、日本でそういうネットワークがあればいい。日本でも本当にそれを必要としている人たちがいるはずですよ。貧乏な層もいるのですから。ただ、すぐどこかへ行ってホームレスの人たちにあげればいいのか、そういう仕組みになかなかないのですね。ホームレスの中でももらいたい人と、こんなのはもらわないという人がいるらしいので、私も直接それを出せる勇気がなかなかない。そこで断られるとちょっとあれですから。ですから、内藤さんが言っていたネットワーク、プラス、こういうネットワークも必要かなと思います。あとはもちろん皆さんの意識と知識が必要かなと思います。以上です。

吉房委員 一番長く時間をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ペットボトルキャップの件で一躍私は、何か知らないけれどもすっかり人気者になってしまって、歩いていると「ペットボトルのおじちゃんじゃないか」なんていうようなことをちょっと言われたことがある。確かにそうかもわからないです。おかげさんですごく集まっています。今、早船本社も会長が一人で回収している。向こうから持ってきてもらう。実は今、

設置してある場所がうちのガレージと早船さんのところと私の町会の会館でやっている。あと社協とか役所、それから学校、そういう方面に回収箱は置いてあります。

どのくらい集まったかということは、これからデータが出ると思うんですが、それについては私も正確にはよくわかっておりません。ただ、自分の家に集まったキロ数はよくわかっております。全部で12.7キロ集まりました。

そんなことで、現状、ペットボトルのキャップの件は、これからもっと継続していきたい。もちろんずっとやりますので、よろしくお願いします。本当にお世話になりました。

この機会にちょっと時間をいただきまして、先ほど鈴木さんのほうから多摩川の土手に桜の木を植えていると。これをちょっと読みましたら、維持管理の中で治水にもつながる。昔の先人が川べりに桜の木、土手に桜の木を植えたのは、単なる花見だけで桜を植えたんじゃないんですね。桜の木というのは、麦踏みと同じで、踏むと根っこが固くなって土手を強固にするという木なんです。ですから昔の人はえらい知恵だなと。花見のときは人が大勢出て、できるだけ土を踏んで、そういうことで土手を守ったということの話を聞きました。それを今思い出しました。ありがとうございます。

実は平成18年と19年の中原区町内会連絡協議会で視察研修へ行ったときの、どういうことを視察研修してきたかということを皆さんにかいつまんでお話ししていきたいと思っております。

18年度の中原町連の視察研修へ行った場所は、エフピコ関東リサイクル工場での食品トレの回収だとかトレの再生。川崎のごみの事情、地球温暖化、自然エネルギーの対策、こういうことをただ私たちは観光に行っているのではなく、エコの問題、環境の問題、すべてをいろいろ——実はこれは地域振興課の豆白課長さんがいろいろバスの中で弁を振るってもらって、私たちは非常に勉強になっているんです。そういうことで福島県のいわき市へ行きまして、いわきニュータウンの太陽光発電集中連系システムの視察をしてきました。それは非常に勉強になりまして、平成9年から平成14年の6年間で310キロワットの整備を完了したと。実はこれは設備は高くかかるらしいのですが、それはそれで置いておいても、地球温暖化に対して地球に優しくやっているなということは実感して帰ってきました。

19年の中原町連の視察研修は、サンペーパー古紙リサイクル業者のところを見学に行きまして、古紙の再生工場の見学をしてきました。それと川崎のごみの事情、ミックスペーパーの回収、レジ袋の節減とかこういうことをやってきました。あとは上高地へ行きまして、上高地を美しくする会という市民団体の皆さんと意見交換をしました。バスの中で豆白課長さんがいろいろと研修の説明をしてくれまして、やはり非常にためになった。

そういうことでエコの問題、地球の環境の問題について、これから中原町連の視察研修はこういうところでこういうことをやっていこうじゃないかということで、かいつまんで話をしたわけですが、実は今年賀詞交換会のときに司会者のほうから、ごみの削

減を目指した内容、分別・リサイクル化の促進ということを言っておりました。また安全・安心まちづくり推進協議会のほうからは、キャンペーンの公用車の使用の節減ということで、小杉駅で去年、最終の安全・安心まちづくりのキャンペーン運動をやったときに、このことも言ったことなんです。

以上、これはかいつまんで話したわけなんです、中原町連、また交通安全対策協議会でもこういうことを入れてやっているということを皆さんにお知らせしていきたいと思っております。よろしくお願いします。

それから、実は今日2つ、次期の——今はペットボトルのキャップの問題を取り上げたんですが、次回からより一層、これからレジ袋をなくするという運動を町会を挙げてやるのですが、もう一つは、エコドライブの問題も次回は取り上げてやっていきたいと思っております。

次回に町会のほうでやるのはレジ袋。そのタイトルをどうしようかと考えたのですが、先ほど事務方のほうからこうやったらいいのではないかと。「ストップレジ袋、お買い物にはマイバッグ」、こういうタイトルで、小杉2丁目町内会は全戸数800世帯なんですが、未加入を入れますと1,000世帯になる。その全戸数に、この文面を書いて入れてやっていきたい。それにはマイバッグを使ってくれとか、マイバッグは自由に皆さんでデザインしたのを使ってもらう、そういうような回覧をこれからやっていきたい。

それともう一つは、今、川崎市ではエコドライブの講習会をどこかで2回ぐらいやっているんですね。先日、新聞かなにかで市長さんがエコドライブのことで出ていました。その用紙はどこかへ行ってしまったのですが、覚えている範囲で頭にたたき込んだことがあったんですが、市長の言ったことは簡単ですが、それからいろいろ調べまして、このエコドライブに関してやはり私たちはやっていかなければならないということがわかりました。また、中原警察でもエコドライブのことをやっているんですね。そんなことで、今検討の段階ですが、これからこの2つを私の町会では取り組んでやっていきたいと考えておりますので。4月の総会が終わりましたら早速これをやっていきたいと思っております。

どこでも皆さん、エコバッグということはやっていて、レジ袋のこともやっているのですが、私の町会では町会を挙げてやっていきたい。

横川委員長 ありがとうございます。すばらしい町会で率先してやった結果をまたお聞かせ願いますけれども、大変熱心にお取り組みのようで、何よりだと思います。

多面にわたって各委員の方からたくさんのすばらしいご意見が出ましたけれども、この辺で区役所の取り組みについて一言と言っては申しわけないのですが、いかがなものでしょうか。ほかにございませんでしょうか。

モハammad委員 ちょっと反論っぽいことです。

横川委員長 誰に対しての反論ですか。

モハammad委員 全体です。今、レジ袋ストップ運動とかという話もあるし、皆さんもマ

イバッグとかという話もあるのですが、それはいい部分もちろんあるのですが、必ずしもレジ袋というのはそんなに悪いものか、それを本当にストップするべきかということも、反論ではないのですけれども、そういうことも思います。今、有料化したり、西友とかだったらレジ袋が要らないなら2円引くとかというのものもあるのですが、私はその2円の節約をしないで、あえてもらっているんです。そのかわりゴミ袋を買わない。そういう面も一つはあるのではないですか。大きなゴミ袋は、自慢じゃないんですけれども、日本に来て20年で、今まで買ったことはないのですから。レジ袋はそういうところでも使えるから、本当にストップしていいのかという部分はちょっと思います。

横川委員長 その方の生活にに応じてね。そのために頭がついているのですから、よく考えていただければよろしいと思います。

モハammad委員 それはストップしないでもエコはできるのですから。

横川委員長 そうね、ストップなんて言ったって、その人のお心です。

吉房委員 それはタイトルをどうしようかという、ただそれだけです。

横川委員長 無理無理にそれに従わなくてもよろしいんですよ。

吉房委員 無理にそれにするわけではないんです。

竹井副委員長 さっき中山さんのほうから地球温暖化対策推進協議会からということで発表がありました。その協議会には、さっきの交通の問題をやっているグループもありますし、緑のこともやっていたりとか、いろいろやっているんですけれども、その一つにエネルギーのことをやっているグループがありまして、ソーラーチームというものです。私もそれをやっていて、お手元にこのパンフレットを配っているかと思いますけれども、中原区の住吉の真ん中のほうにある国際交流センターに今度、発電所をつけようということで今活動しています。

川崎市のほうの新エネルギービジョンというのがございまして、そこでは公共施設に自然のエネルギー、太陽光発電とかというのをふやしていこうという話をしているんですけれども、なかなか予算がなくてふえていかないので、東京電力さんのグリーン電力基金という助成金の制度を使いまして、全部で800数十万円のうち、700万円の助成金をもらって、市民のほうで120～130万円集めようということで今やっております。

私どもの取り組みの中でも、先ほどのアル・ゴアさんの「不都合な真実」の上映会をやったりとかでお知らせなどもしております。僭越ながら振り込みの用紙も入っておりますので、1口1,000円からですので、振り込んでいただくか、私のほうに手渡しで後でお手当てのほうから少しでも現金をいただければと思います。勝手な宣伝で申しわけありませんでしたけれども。

というようなことで、やっぱりいろんなことをやっていかないと環境問題はよくなっていかないということもありますので、それぞれの取り組みを大切にしていければいいなと思っています。

横川委員長 ただいまの件、お金を伴うことは簡単にはできませんので、もうちょっと詳しく聞かないと、みんな笑ってられないような気がするので、また後で落ちついてよく聞きたいと思います。用意周到に振り込み用紙まで入れたりしちゃって、これはちょっと抵抗があるかもしれません。

藤枝副委員長 ずっと聞いていまして、委員の皆さんは「もったいない」ということを大分意識しています。電気の節約という話が大分出ています。いつか聞いた話で、イギリスに話が飛びますけれども、エリザベス女王が暇があると宮殿の中のスイッチを消して歩いているということを聞いたことがあるんです。かなりエコ運動の先端を行っているのかなと思っています。

それと先ほどの吉房委員が触れた食品容器の製造・販売会社エフピコの問題ですが、もうちょっと重複しますと、日本で皆さんが何気なく使っているトレイがありますね。あれのトレイを工場としてトレイ・ツー・トレイをやっているところは日本でも幾つもないんです。その一つへ行っただけですけども、ただ、はっきり言いまして回収率が非常に悪いというのが実際の数字です。あれが皆さんがどんどんトレイを回収すれば、もっとたまるんですけども、数字的には非常に回収率が低いです。

それと何といいますか、「もったいない」という言葉が今の時世に合うような合わないような、わからない人も多くなってきたということも事実です。でも、委員の皆さんがこれだけ一生懸命に取り組んでいるというのはすばらしいと思います。

ここで突然話が変わりますけれども、モハammadさんの意見はまた別な意味で非常に参考になりました。意見はすばらしいと思います。

横川委員長 ほかにございませんでしたら、区役所のほうの働きを発表していただきたいと思いますけれども、よろしゅうございますか。

事務局 では、委員の皆様のご取り組みとあわせて、区役所のほうも前回の区民会議を受けまして、区役所としましても身近なことで何かできることはないかということで、区役所の中で話し合いをしまして、幾つか身近なところからできるエコ活動ということで活動を始めましたので、簡単ではございますけれども、ご報告させていただきたいと思います。

資料3をご覧くださいと思います。第2回、また今日の区民会議を受けまして、区役所としましても委員の皆様と一緒に区役所の職員全員で身近なところの環境問題に取り組んでいきたいと考えております。

まずその1点目としまして、「中原区役所一課一エコ運動」と申しまして、先ほど中山様のお話にもありましたように、実はこれのネーミングはブレイメン通り商店街の「一店一エコ運動」から拝借しまして、伊藤理事長のほうにもご了解をいただいているところなんです、それぞれの課でエコ活動のどんなことができるか考えていただきまして、職員全員で身近なところに取り組んでいるところがございます。ブレイメン通り商店街の「一店一エコ運動」のように取り組むことを各課に考えていただきまして取り組みまして、各

課の窓口に掲げることで市民の方に対しても宣言できるように、目の届くところに掲示してございます。

資料3をおめくりいただきますと、各課の取り組む内容の一覧になってございます。例えば区役所の上のほうのある階の課では、なるべくエレベーターの使用を抑えるですとか、地域振興課では市民の方とイベントが多いものですから、エコチェックシートみたいなものをつくりまして、イベントのチラシにはなるべく再生紙を使うですとか、紙コップの使用をなるべく抑えろとか、そういったようなチェックシートをつくったりですとか、総務では来年も緑のカーテンの取り組みを広めているとか、そういったことをポスターにしまして、各課の窓口に掲示してございます。

これは一覧の全部並べたものを1階のロビーにも掲示してございますので、ぜひお帰りがけの際にご覧いただきたいと思います。

さらに、このほかにも区役所全員で取り組むことは、来年度また緑のカーテンを地域に広めたいと思っております。今年は試しにどんなものか、区役所のほうで育ててみたんですけれども、初めてでも割合うまくいきましたので、来年はぜひ育てていただける団体さんですとか地域の方を市政日より募集しまして、プランターですとか肥料とか種を貸与したいと考えております。そのときに今回区役所で育てて若干の経験を積ませていただいておりますので、アドバイスみたいなものをまとめた簡単なリーフレットをつくりまして、そのときに一緒にお渡しさせていただきたいと思っております。そのためにリーフレットの作成を今から準備を始めたいと思っております。

また、そのほかにも区役所の1階ロビーでエコギャラリーといった形で、例えば前回の区民会議でご紹介しましたように、小学校で環境学習などをしていますので、そういった発表の場として区役所ロビーを使えないかといったことを今計画してまして、小学校の何校かに今、計画のお願いをさせていただいています。

また、吉房会長のご提案がありましたペットボトルのキャップの収集を区役所の5カ所に収集箱を置かせていただきまして、実は今日現在で約60キロ集まっています。先週は本月4丁目の共和会の方がお見えになられて、軽トラックで積んできていただきまして、それは40キロぐらいお持ちいただきましたので、区役所のほうでは今100キロぐらい集まっております。非常に反響も大きくて、最近、皆さん、ご家庭とか地域でペットボトルのキャップをお集めいただいて、収集箱には1個1個入っているのではなくて、袋ごと束で入っている場合が非常に多くて、皆さんのご家庭ですとか団体などで集めていただいているんだなと感じております。

今回のこういった取り組みは区民会議の取り組みということで、ホームページ、また市政日よりなどで広報していきたいと考えています。資料3の一番最後のページになるのですが、実はせっかくこういった取り組みを今行っているところがございますので、市民の方に、区民会議の中から実際に皆さんでお考えいただいて少しずつ実践に移していただい

ているので、この取り組みを広くPRして一人でも多くの方々に意識を持っていただいて取り組みをしていただきたいと思っております、その際にキャクラターマークを事務局のほうで考えてみました。最後のページに地球のマークとしろくまちゃんがいるんですけれども、この中原区区民会議発の取り組みということでPRできたらなと考えております。

このしろくまちゃんは地球の温暖化で氷が解けてしまって、中原区にたどり着いたというような勝手なエピソードをつけているんですけれども、地球の「エコちゃん」としろくまの「ロジーちゃん」で、エコロジーのそのままなんです、こちらの「一課一エコ運動」のポスターではないのですけれども、私たちのバッジにも今入れさせていただいて、市民の方にもPRしているところがございますので、皆さんそれぞれの団体さんですとかご家庭で取り組まれていますので、よろしかったらぜひ一緒に使っていただけないかと提案させていただきたいと思います。例えば鈴木委員のほうからありました、こういった多摩川クリーン作戦のチラシですとか、吉房会長から今ご提案があったレジ袋ですとかエコドライブのパンフレットとかをつくる際には、ぜひ一緒に中原区区民会議の取り組みとして、もしよろしかったら使っていただけないかと思っております。これはご提案させていただければと思います。

以上、区役所の取り組みといったことで考えたことを発表させていただきました。

内藤委員 これは勝手に使っていいということですか。

事務局 そうです。ぜひこの活動でPRしていただければと思います。データでつくっていますので、お申し出いただければ、メールでお送りさせていただきます。

鈴木委員 缶バッジにしようかな。缶バッジにして子どもたちに配る。

事務局 その辺の議論は、またご提案をよろしくお願いいたします。

横川委員長 どうもありがとうございました。お聞きになった方はおわかりだと思うんですけれども、マークはご自由にお使いになっても後から請求は来ないと思いますので、どうぞお使いになって宣伝してください。また、委員の方たちがここだけで熱弁を振るうのではなくて、ご自分がお戻りになったまちとかそういうところでも必ずこれを反映していただけるように、チャンスをとらえて今日のこういうお話を広めていっていただきたいと思います。

それでは、今の皆さんの発表をいろいろ聞きまして、区のほうでも大変細かい部分にまで手を入れていろいろご協力いただいたり、ご自分たちでもいろいろ工夫をしていらっしゃる方が十分多かったと思うんですけれども、このことにつきましてまだ意見を交換したいと思っていられる方はおりますでしょうか。時間的に言うと、ちょうど4時半でうまいぐあいに行ったかと、私は思っているんですけれども、これからまとめに入りたいような気持ちなんですけれども。どうぞ。

内藤委員 今日来て、ここにそれぞれの委員さんがやっていることが書いてありますよ

ね。これは私がここに来たときに、あっ、こうやって書いてくださっているということはすごく励みになるんです。また人様のを見て、これはうちでできないかということになるので、今日言ったのもこれから先、積み重ねていって、こういった形で区民会議がこういう積み重ねをやっているんだみたいなのを毎回——今日書いてある以上のことを発表された方もいるから、つくっていただくとすごく励みになるので、その積み重ねで大きなことを、最初の一步を自分の身の回りのことからだんだんほかの人に伝わっていくようなことまでもつながると思うので、ぜひこの資料の継続をお願いします。

横川委員長 ありがとうございます。区の方たち、お聞きのとおりでございますので。

それでは、区民会議の皆さんがお取り組みしてくださっているこのことについて、キャッチフレーズを決めたいと、さっきおっしゃっていましたが、それは皆さんからこの次にでも聞きますか。それとも何か決めてあるものがあれば、どうぞ。

事務局 決めてあるわけではないのですが、まずはそれぞれの委員の皆様から取り組み始めていただいていますので、今から市民の方に報告とPRをしたいと思っていますので、この取り組みについて、まとめになるのかどうか、ぜひキャッチフレーズを決めいただければいいのかなと思っているのですが、いかがでしょうか。

横川委員長 やはりこの場で決めたほうがよろしいのかしらね。ひらめきがないとだめじゃない。いかがなものでしょう。キャッチフレーズ、心にぐつとくるようなとか忘れない言葉とか。

事務局 中原区の区民会議でいろいろご議論いただいて進めていくということで、「中原区区民会議地球にいいことプロジェクト」はいかがでしょう。それぞれ皆さんがいろいろ取り組んでいらっしゃるようなことを、今、内藤委員がおっしゃったようなことを含めて広く市民の方に発信していったらどうかなと思っています。

横川委員長 よろしいのではないですか。ぴったりでございますよね。皆さん、全然ひらめかなかったでしょう。さすが区役所ね。大したものじゃありませんか。ぜひそのあれでよろしく願いいたします。

ほかによろしゅうございますか。

竹井副委員長 今後も区民会議でテーマとしてということにもなるかなと思うんですけれども、先ほどブレーメン通り商店街の「一店一エコ運動」で、今度役所の中で「一課一エコ運動」、同じように「一人一エコ運動」とか、ご家庭で「一家一エコ運動」とか、区内でそんなぐあいに各家庭も取り組んでいければいいなと思うし、そういうような語呂合わせを含めていいなと思いました。

あとそういうのを広めるときに、これは私の写真が写っているんですけれども、環境のイベントでどこかのブースで自分のすることを書いて、こうやって写真を撮ってプリントアウトしてくれるんですけれども、例えばこの区役所の1階にたくさんの人が来ますので、あなたのエコ運動は何ですかみたいなことを聞いて、書いてもらって、写真に撮っ

て、1階のロビーの壁にバーツと張っておくとか、そうすると、あっ、あの人がこんなことをやろうとしているとかいうのが少し話題性にもなるかと思うので。

役所の「一課一エコ運動」は、普通の事業者も課なり部があると思いますので、「一部一エコ運動」「一課一エコ運動」にしていくとか、この区民会議から発信でももちろんよろしいですし、行政もやっているしお店もやっているし家庭もやっているし会社もやっていますみたいな、そういうのをうまく広げていけたらいいなと思っています。

横川委員長 ありがとうございます。

今回の取り組みは、経過報告を行いながら2期区民会議の間も続けて実施していきたいと思いますが、皆様いかがでございましょうか。

それでは、今までになく細部にわたりいい意見が出ておりましたけれども、ここだけで終わらずに継続していきたいということ。2期以降も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

なお、今回の身近な取り組みは、区民みんなにも取り組んでいただけるように、区民会議発の取り組みとして事務局と協力しながら広報したいと考えています。

ご意見もまだまだございますでしょうが、時間が参りましたので、議論はこの程度として打ち切りたいと思います。

本日ゲストとしていただきました中山様、もしおよろしければ、せっかくの機会でございますので、本日の会議のご感想、またはご自分の先ほど発表なさったことと委員の方がいろいろご意見を申し上げましたことについてアドバイスなどございましたら、ご遠慮なくお聞かせいただければありがたいと思います。

中山氏 どうもありがとうございます。とても勉強になりましたし刺激になりました。

それで、ご遠慮なくということでしたので、遠慮なく思ったことを言わせていただきますと、ひねくれたこととか水を差すようなつもりはないんですけども、ペットボトルのキャップを集めるということが、ペットボトルのキャップがいっぱい増えたねと、それをどれくらい喜んでいいかなというのもちよっと思いました。ペットボトルをたくさん使うことを奨励するようなことにならなければいいなと。それよりは寄附が必要であればちゃんと寄附をしたほうがいいのかという気がしました。

メーカーさんもおっしゃっているんですけども、ごみになるペットボトルのキャップはすごくいい素材なので、それをリサイクルするというのはとてもいいことなんですけれども、ペットボトルを大量に消費して経済が潤うということもあるんですが、それよりはマイボトルを持っていく、マイカップを持っていくというのが環境に配慮した、よりいい行動ではないかという気がしております。

余計なことを申し上げたかと思うんですけども、本当に今日はとても刺激になりました、皆さん何も言うことがなくて、ここからどうやって情報発信してムーブメントをつかっていくのかなというところが、また大きな課題かなと思いますけれども、ぜひ私も参加

させていただければと思いますし、期待しております。ありがとうございました。（拍手）

横川委員長 どうもありがとうございました。これからも何とぞよろしくお願いいたします。

4 その他

横川委員長 それでは、本日の議題は以上のとおりとさせていただきます。

次に、その他となりますが、実はこの第1期区民会議も残りわずかとなりまして、そろそろこの2年間のまとめに取りかからなくてはならない時期に来ております。したがって、今後の日程などについて事務局から予定をお願いいたします。

事務局 それでは、最初に皆様にお願い事がございます。別添3としましてつけさせていただきますが、実は皆様にレポートをお願いしたく思っております。第1期区民会議がそろそろ終わりに近づいておりまして、この間の皆様のお話の様子ですとか今回のように取り組みの様子をまた報告書にまとめまして、市長・区長への報告、さらには市民への広報、また地域で取り組みを広めていただくために報告書を取りまとめたと考えております。そのためのレポートでございまして、ぜひ皆様全員のご協力をお願いしたいと思います。

内容につきましては、第1回からのテーマ——第1回目は高齢者ですね。地域でどうやって高齢者を支えていこうかといったことでございました。2回目については地域の安全・安心。特に小学校を切り口にして考えたときのものとございます。第3回目は地域の中の商店街といった形で、地域の中での商店街の役割についてご議論いただきました。また昨年になってからは、地域に参加し地域に学ぶといったことで、どうすればより多くの人がまちづくりに参加できるかということをご議論いただきました。また前回、今回と環境について、地域で取り組む環境対策といったことで身近な環境対策についてお話をいただいています。それぞれのテーマにつきまして、今回の環境のように地域で取り組みが始まったこと、また、なかなかそういったことが直接的に難しければ、お考えになられたことでも構いませんので、ぜひこちらのレポートを取りまとめたいただきまして、返信用封筒を添付してございますので、事務局のほうにご提出をお願いいたします。

こちらのレポートを一つ土台とさせていただきます、次回の第4回区民会議の一つの議題とさせていただきたいと思っております。あわせてこれを報告書のベースにさせていただきたいと思っております。報告書は、今までの議題の様子と、こちらの報告書を中心に作成したいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いしたいと思っております。また内容によりましては、私たち事務局のほうの写真等、取材に伺わせていただきたいと思っております。あわせてそういった取り組みの様子を区民の方にも広く広報したいと思っておりますので、ご協力をぜひお願いしたく思っております。

なお、作業の都合上、締め切りを設けさせていただいております、2週間ばかりの短い間ではございますが、ご協力をぜひよろしくお願いしたいと思います。以上でございます。

事務局 続けて、今後の日程をお知らせしたいと思います。年度末の大変お忙しい時期なのですが、今、鈴木からお話しさせていただきました取りまとめということで、第4回区民会議ですが、3月14日金曜日、予定では2時からということで開催をさせていただければと思っています。内容は、今お話しさせていただきました第1期区民会議の取りまとめということで、報告書についてご議論をいただければと考えています。

続いて、次第のほうにも載ってございますが、3月27日に第4回の区民会議で取りまとめいただきました報告書をもとに市長及び区長への報告会を実施したいと考えております。こちらのほうも多分午後になろうかと思いますが、現在、市長との日程を調整しているところでございます、おおむね3時ないし4時——多分4時ぐらいになるのかなと思いますが、昨年と同じように市長への報告会を実施したいと思っております。

それと加えまして、5月以降になろうかと思えますけれども、市民への報告会を実施できたらと考えております。こちらのほうは3月27日に市長並びに区長へ報告した内容をもとに、区民会議の審議の状況を区民の方にご紹介したり、区民会議をきっかけにして地域の皆さんに広がっていったような取り組みをご紹介できたらということで、5月ぐらいにその市民報告会を開催できたらと考えております。具体的に何をするかということについては、今後詰めていかなければいけないですし、委員の皆様にもご相談をさせていただきたいと考えておりますが、そういったような会議を開ければと考えております。

あと最後なのですが、お手元にも資料がございます3月1日土曜日、宮前区土橋小学校で開催されます自治推進委員会フォーラムで、区民会議企画ということで、各区の区民会議の運営状況とか課題、今後の方向性などについて意見交換を行うというフォーラムを実施したいということでございます。そちらは竹井副委員長さんがお詳しいので、竹井副委員長さんのほうから一言。

竹井副委員長 今お話のありましたこの資料ですけれども、川崎の自治推進委員会というものがございまして、これは区民会議をやることを規定しております自治基本条例のいろんなことを見ていこうという委員会なんですけれども、その中の一つのテーマで区民会議を扱っております、もちろん中原区だけではなくて7区でやっているわけなんですけれども、ちょうど1期目の2年目が終わろうとしている時期に、来期に向けて区民会議はどんなものだったのかなみたいなことを振り返ったり、来年、来期どうしたらいいかということをもみんなで集まっていただいて話し合いたいというものでございます。

先週、準備会がありまして、横川委員長と生富さんも参加していただいたんですけれども、本番は3月1日土曜日午後1時15分から宮前区の小学校なんですけれども、2月14日に第2回目の準備会がございます。これの裏のほうで、第2部ということで85分の時間が

ございまして、その中で今何をしようかということで、7区の区民会議のほかの委員さんも集まっていたいて1回目話し合いを行いまして、2回目、2月14日にあらあらもう決めないといけないという時期ですので、2月14日の場所は区役所の505会議室で地元ということもありますので、関心のある委員の方はぜひ出席していただいて、議論に入っただければ非常にありがたいと思います。あともちろん3月1日のときにぜひ多くの区民会議の委員さんが7区から集まって、7区の区民会議の委員さんが集まったことはありませんので、そういう交流も含めまして3月1日に行いたいと思っていますので、ぜひお時間の都合をつけていただいて、集まっていればいいなと思います。

そもそもは3月1日、2日の市民自治創造・かわさきフォーラムという市民活動ボランティアのイベントなんですけれども、3月1日の冒頭、市長さんのあいさつの後に区民会議のフォーラムがあるということになると聞いておりますので、ぜひあわせてお願いしたいと思います。以上です。

横川委員長 ただいまの件でご質問はございますでしょうか。ご理解いただけますでしょうか。できるだけ多くの方がご参加いただければありがたいと思います。

ただいまの区からの報告とこちらの報告とにつきまして、特にご質問がなければ、この辺で終わりにしたいと思いますけれども、事務局はよろしいですか。

事務局 はい。

5 閉会

横川委員長 特にないようですので、本日の議題はすべて滞りなく終わらせていただきました。皆様のご協力によりまして、つつがなく第3回目の議事は大変密度の高い、暖かいご意見の中に終わることができました。副委員長の方たちも、皆様のご協力を得て無事に終わることができました。

最後まで、参与の方もお残りいただいて私たちとのコミュニケーションとかお顔を見るだけで暖かい感じがするし、私たちのこういうところも知っていただけるんだと思うだけで大変身近に感じるわけですね。ですから一々申し上げないけれども、本当に最後までご出席いただいて心から感謝しております。

今日は無事に滞りなく終わらせていただきまして大変ありがとうございました。今日はいつもと違いまして人数が少なく、ちょっとびっくりしたんですけれども、今までになく区役所が活発にご意見を言うてくださいましたので、大変すばらしく研修していらっしゃるんだなということがよくわかりました。

これをきっかけに皆様もそれぞれ自分の立場を考えて、地域でご活躍いただければありがたいと思います。本日はご多忙のところご協力いただきまして——ただいま、あそこからのぞいている、あの方が杉野さんとおっしゃるんですけれども、杉野様、こちらでございます。ちょうどよかったわね。ごあいさつをお願いいたします。

杉野委員 中原区で民生委員児童委員協議会の会長をやっております杉野と申します。よろしくどうぞお願いいたします。

今、ちょうどパルで会議がございまして、今終わって駆けつけたところでございます。大変に申しわけございませんでした。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございます。(拍手)

横川委員長 ご覧のとおりの方でございますから、人生経験も大変深くて、中原中学校などでは同窓会の会長などでお顔なじみでございますので、大変心強い、頼もしい方が加わっていただいております。

以上をもちまして、本日の会議をすべて終了させていただきたいと思います。

中山様にはお忙しいところわざわざおいでいただきまして、ありがとうございました。(拍手) 私たちはあなたより先輩でございますけれども、先輩は先輩なりに古い意見ばかりではございませんので、どうぞこれから仲よくよろしくお願いいたします。

それでは、本日はありがとう存じました。(拍手)

午後4時51分 閉 会